

■北海道大、北海学園大が連勝。第3節

第50回北海道学生選手権第3節は9月8日、札幌市清田区の北海学園清田グラウンドで1部の2試合を行った。3連覇を狙う北海道大は室蘭工業大を20-8で下し2連勝。室蘭工業大は1分け1敗。3年ぶりの全道王者奪還を目指す北海学園大も東京農業大に62-6で快勝し、2連勝とした。東京農業大は2敗。第4節は9月15日、札幌市円山競技場で1部の帯広畜産大-東京農業大、北海道大-釧路公立大の2試合を行う。

第1試合の北海道大-室蘭工業大は、室蘭工業大の粘り強い守備でロースコアの接戦に。一時は室蘭工業大がリードを奪ったが、最終Qに北海道大が2TDを挙げて逆転勝ちした。

先手を取ったのは北海道大。第1Q4分、DBダッシュティ瑛伶（1年、千葉・専大松戸高）のインターセプトで得た好機に、QB山本康介（4年、奈良・奈良学園登美ヶ丘高）からWR米谷和馬（2年、奈良高）への9ヤードパスで6-0と先制した。



室蘭工業大は同10分、北海道大のパンツをLB友田悠斗（3年、岡山・玉島高）がブロック。ボールがそのままエンドゾーンを越えてセーフティーとなり2点を返すと、第2Q9分にはRB富樫司（4年、札幌清田高）の2ヤードTDランで8-6と逆転した。

北海道大の再逆転は第4Q。後半から出場のQB神田智史（3年、東京・麻布高）がWR田中夏暉（4年、東京・渋谷教育学園渋谷高）へ37ヤード弾を投じて13-8とすると、終了間際にRB辻和希（4年、札幌北高）の11ヤードランも飛び出して20-8と加点した。北海道大は2連勝、室蘭工業大は1分け1敗となった。

北海道大の里見佑三監督は、前年100点勝ちした相手に手こずったことから「うちは今、弱いとしか言いようがない」と不満げ。「QB神田は予定通りの起用。攻撃にリズムが生まれた。次週の釧路公立大戦は対策をしっかりと行って臨みたい」と危機感を募らせた。オープン戦のけがのため、今季初出場の神田は「逆転のTDパスは4年生WRが取っ

てくれると信じていた」と完全復帰を強調した。室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「惜しかった。勝ちへの執着で、北大が上だった」と、あと一步で逃した北海道大戦初勝利を残念がった。

第2試合の北海学園大－東京農業大は、北海学園大が9TDの猛攻で、2年ぶりに1部に復帰した東京農業大を退けた。

北海学園大は第1Q1分、エースRB高杉武生（4年、浦河高）の34ヤードTDランであっさり先制すると、同11分にもRB高杉の2ヤードランで加点。第2Q7分にはQB成田滉佑（3年、札幌白石高）からWR神林駿太（1年、北海高）への19ヤードパス、同10分にはRB高杉の40ヤードランで28－0とリードした。後半も攻撃の手を緩めず、第3QにはRB加藤真之助（3年、札幌藻岩高）の55ヤードラン、RB高杉の4TD目となる1ヤードラン、QB成田滉からWR五十嵐勇星（1年、札幌啓成高）への11ヤードパスで加点。第4Qにも控えQB松平悠杜（1年、札幌龍谷高）からWR神林への14ヤードパス、QB成田滉からRB末広大貴（1年、北海高）への55ヤード弾で62－6とリードを広げた。

選手16人の東京農業大は第2Q11分、北海学園大のオンサイドキック崩れでつかんだ敵陣44ヤードからのドライブで、QB関叶翔（2年、茨城・日立北高）からWR木村拓海（3年、山形・上山明新館高）へ40ヤードTDパスが決まり6－28と追いつけたが、後半は攻守兼任の疲労から故障者が続出。北海学園大の追加点を許した。



北海学園大の高木幸樹HCは「1年生選手を多く使えたのが収穫。ゲームの流れを作るためにノーハドルも使ったが、QB成田の経験になったはず」とチーム力の引き上げを強調した。1年生ながら2TDキャッチのWR神林は「TDは公式戦で初めて。高校ではバスケット部だったので、WRを希望した。練習の成果を出せた」と喜んでいた。東京農業大の神田健心コーチは「人数の差と体力の差が出た。次の帯広畜産大戦はチーム力で勝ちにいきたい」と巻き返しを決意していた。（広報委員 塚田博）